

「スポーツ×農業」を全国に -フレッサ福岡をモデルに-

東北学院大学教養学部
スポーツマネジメント研究室



スポーツ界の危機
東京オリンピックが注目される中で・・・



スポーツの課題

実業団チームの衰退
セカンドキャリア問題
成人の運動実施率低下

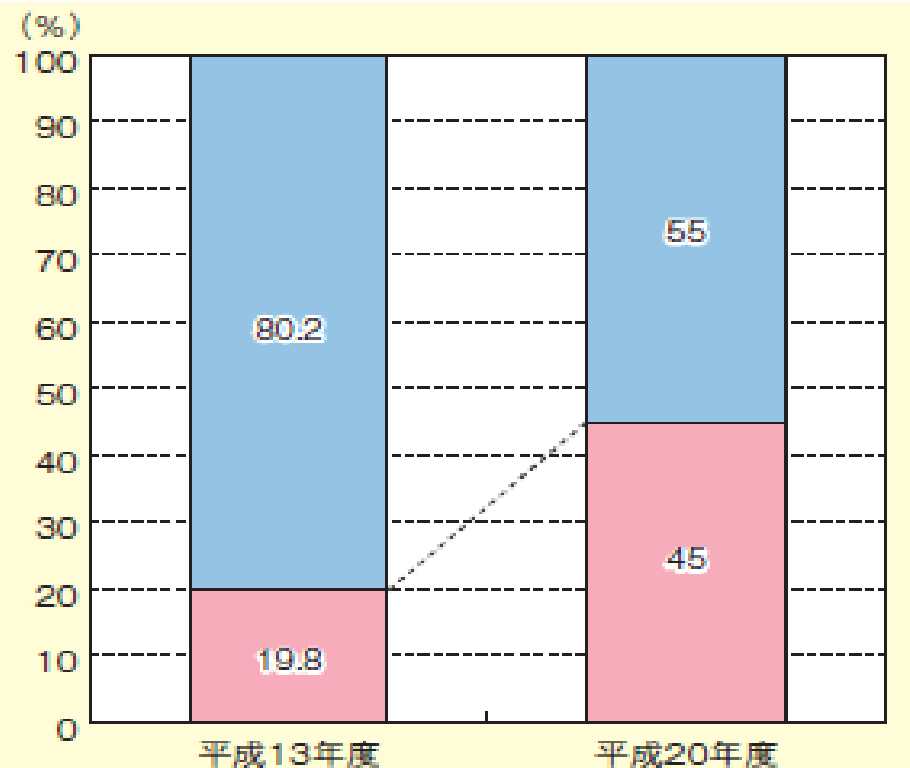


不景気によって企業がチームを手放す
環境(組織や設備)が整っていない



実業団チームの実態

図1 実業団チームの変遷



■ 何らかの支援を行っている ■ 特に支援は行っていない

(出典) 文部科学省「JOC強化指定選手が所属するチーム及び日本トップリーグ機構加盟リーグに所属するチームに関する実態調査」(平成21年)

まだ半分
以上も...



農業による解決策 スポーツチームを農業が助ける

農業がスポーツを支えるメリット

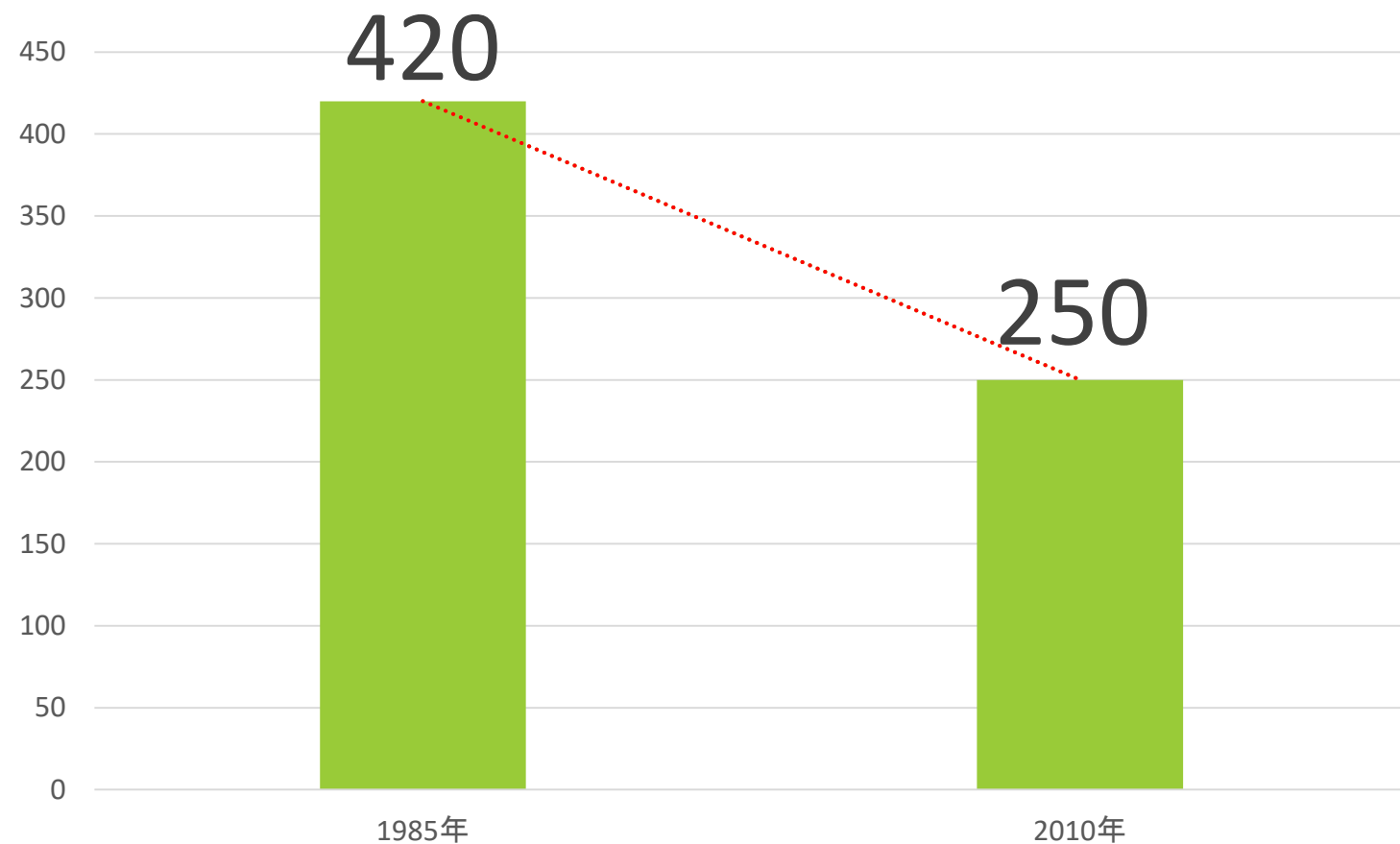
- 不景気にも対応できる、**転勤がない**
⇒ 安心してスポーツに打ち込める体制
- 時間の融通が利く⇒ 練習時間を確保できる
- 独立出来る ⇒ セカンドキャリアが保証される
- 学力に左右されない** ⇒ スポーツに熱中してきてもOK
- 「食」に対する意識向上→効率の良い身体づくり



しかし・・・

農業の課題(実態)

図2 農家数



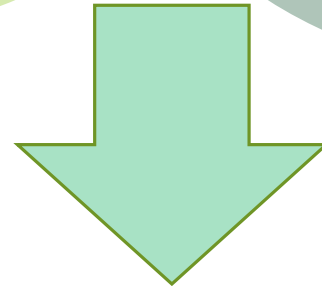
農業人口が**激減**している



農家の後継者不足

魅力がない
儲からなそう

少子高齢化
若者の都市部への流出
野菜消費の減少



農業就農人口減少



両方の課題を同時に解決
スポーツと農業を掛け算しよう

スポーツ
「職場(チーム)が
欲しい」

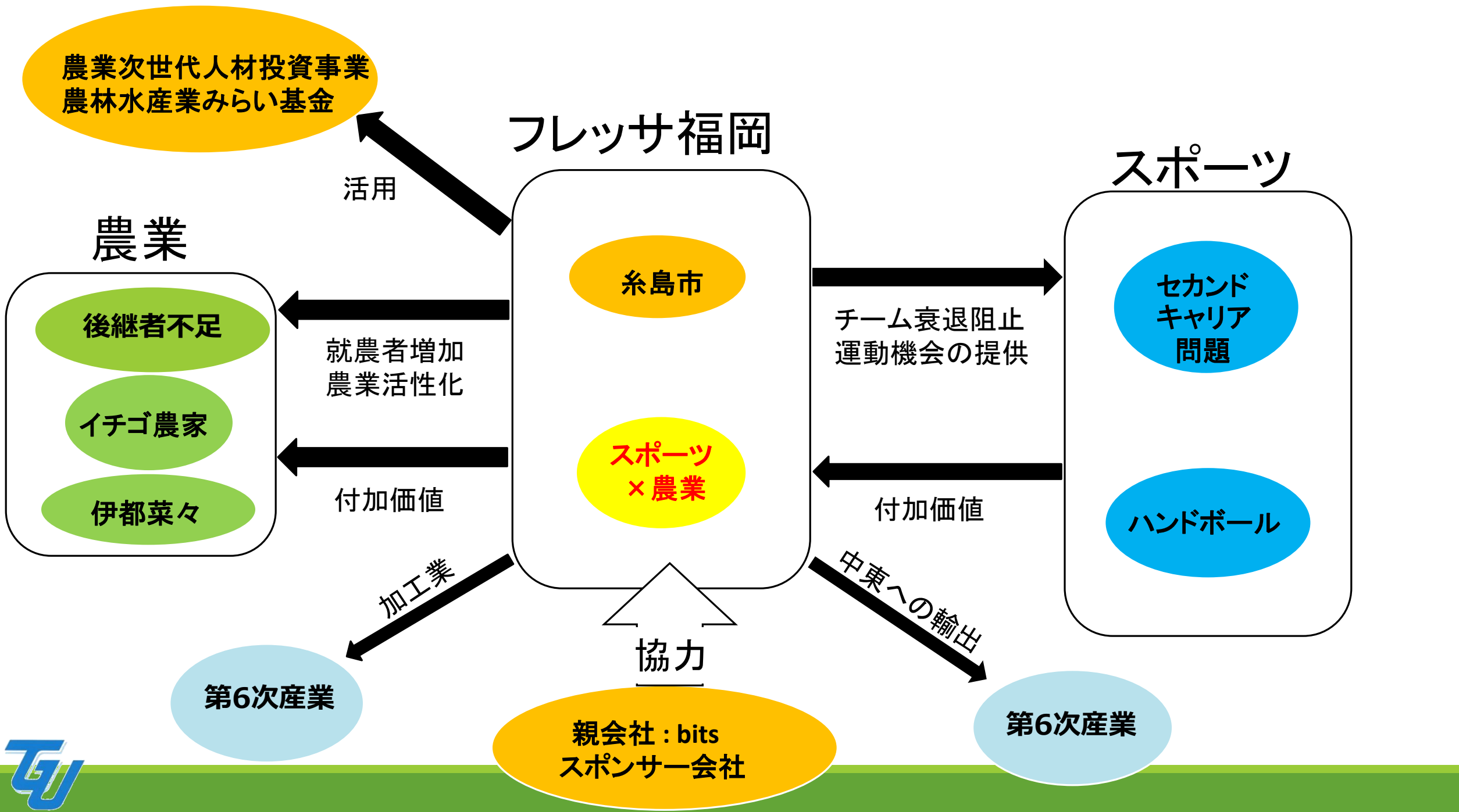


農業
「労働者(後継者)が
欲しい」

事例紹介：フレッサ福岡

- ・福岡県糸島市でJHLを目指す社会人ハンドボールチーム
- ・元教員、大学リーグの得点王、パティシエになる夢を持つ選手など様々
- ・昼は農家、夜はハンドボール
- ・スポーツの課題（セカンドキャリア）
農家の課題（労働者不足）を同時に解決





農業次世代人材投資資金（旧青年就農給付金）

＜準備型＞

次世代を担う農業者となることを志向する者に対し、**就農前**の研修を後押しする資金を交付

- ・対象者：原則45歳未満で就農する方
- ・交付金：**年間150万**
- ・交付期間：**最長2年間**
- ・交付要件：研修終了後、独立・自営就農する場合は就農から5年以内に認定新規就農者等になること



<経営開始型>

次世代を担う農業者となることを目指す者の経営確立を
支援するため資金を交付

- ・対象者：**独立**、自営就農時の年齢が原則45歳未満の認定新規就農者
- ・交付金：**年間最大150万円**
- ・交付期間：**最長5年間**
- ・交付要件：研修終了後、交付期間と同期間営農を継続すること



農林水産業みらい基金

- 創意工夫ある取組みで、課題解決に挑戦する
地域の農林水産業者への、「あと一歩」の後押し
→地域活性化、担い手増加、収益力強化を目指す
- 必要条件・書類を揃え、厳正な審査により支給される
- 申請額の上限・下限は設定していない
- 事業期間: 最長3年

フレッサ福岡の活躍

○メディア出演(テレビ、ラジオ、新聞、情報誌など40件)

○試合の成績

・福岡県ハンドボールクラブ選手権優勝

・九州クラブ選手権3位

・**ジャパンオープントーナメント準優勝**

○地域・イベント

・ハンドボール教室、トークショー

・清掃活動、マラソンボランティア

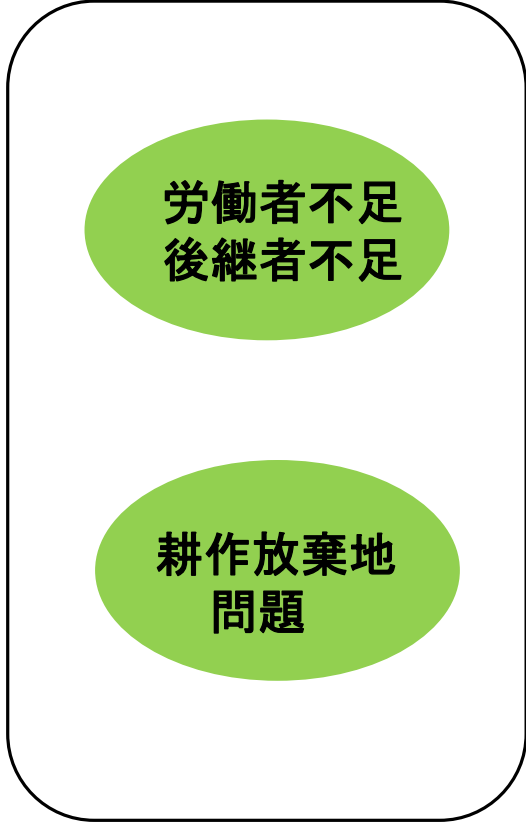
・九州物産展に出店(フレッサジェラートなど)



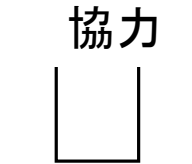
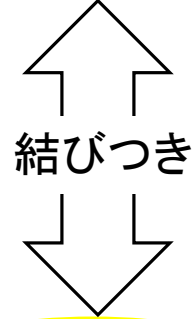
政策提言

宮城で「スポーツ×農業」を実現させ、
全国へつなぐ

農業



地域



スポーツ×農業



スポーツ



課題解決策

スポーツの選択

課題解決策

活用

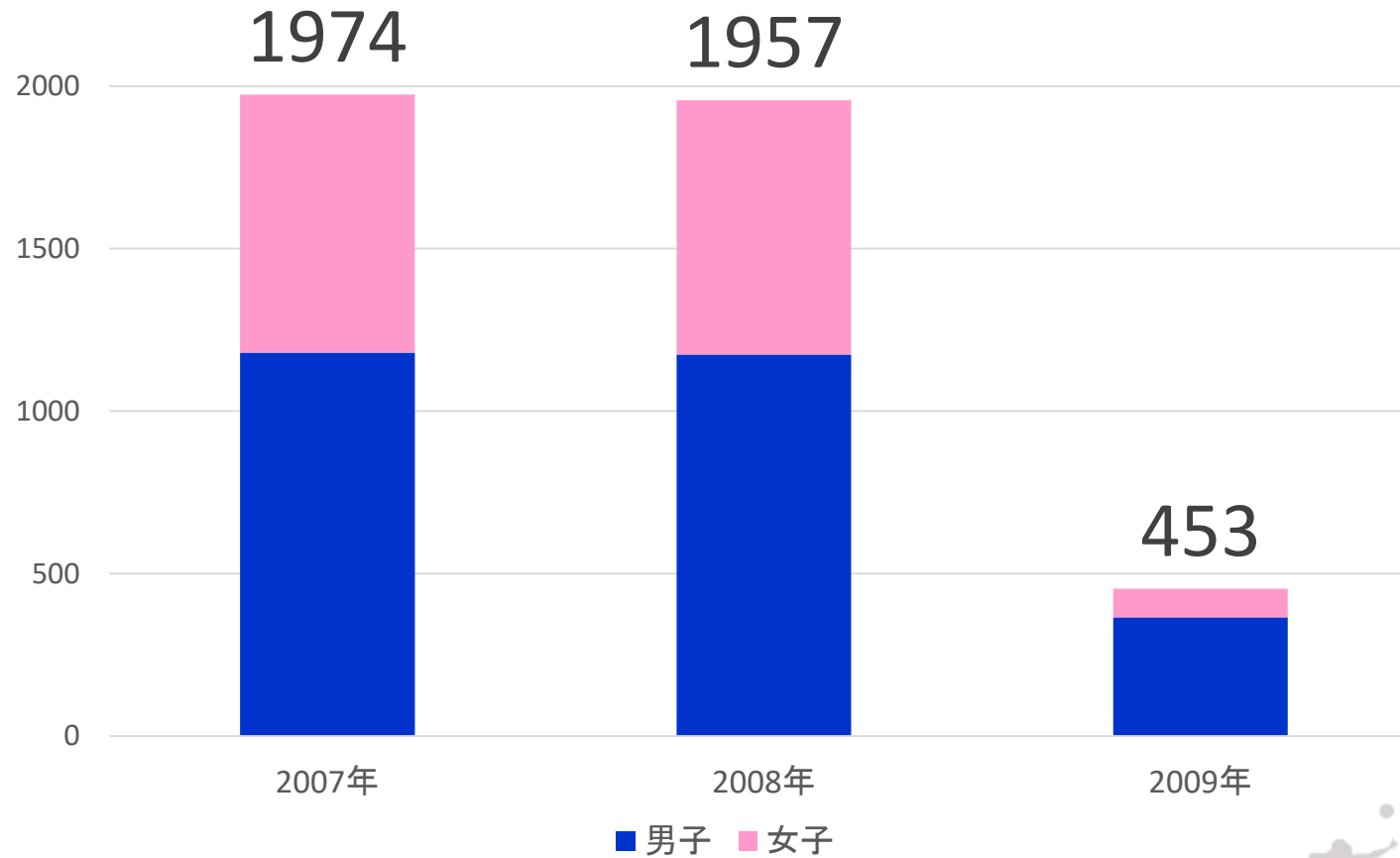
農林水産業
みらい基金

農家・農業法人
スポンサー会社
行政



スポーツ（バレーボール衰退）

図3 全国実業団チーム登録数



宮城県は男子2チーム、
女子は0！
⇒宮城のバレーを
盛り上げよう！



農業（吉田いちご農園）

- ・労働者不足・震災による後継者不足
- ・1日ごと効率の良い栽培を1年間安定的に行う
→安定した所得でないとパートが転職してしまう
- ・技術の進歩により「朝早く、夜遅く」という
農家のイメージが変わってきた
- ・農家を雇う**起爆剤**のような案を求めている



具体的な試案
「オールバイエン亘理」を設立



設立の手順(1)

①背景(例):仙台ベルフィーユ廃部

- ・代表者「バレーボールチームをつくろう」→クラブ設立へ
- ・一般社団法人として設立(目的・運営が自由、所轄庁の監視下に置かれない)

②活動拠点を選定

- ・「宮城の湘南」と呼ばれる亘理(地理や気候の要素も考慮)
 - ・亘理町のいちご農家「労働者・後継者ほしい」(都道府県が認める研修先)
 - ・農業法人(親会社)を確立(アルバイト先・経営の学び場)
(・競技や地域によっては練習場所の有無を考慮する)
- ※亘理郡には体育館4つ(月ごとの予約制)

設立の手順(2)

③選手(就農者)を募集

- ・トライアウトによる実技試験、農業のやる気を面接試験

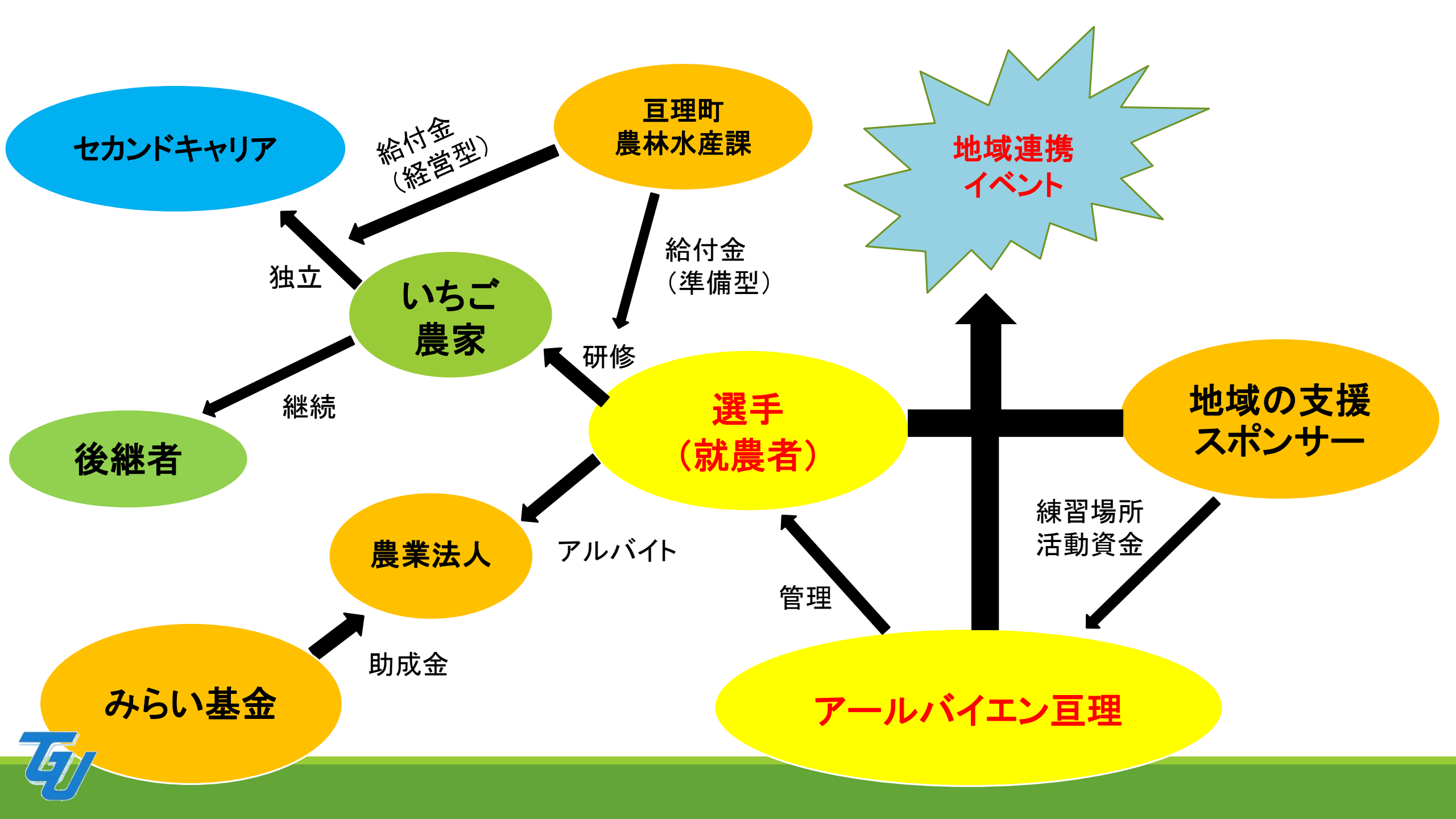
④活動資金を依頼

- ・亘理町農林水産課から農業次世代人材投資資金
- ・一般社団法人 農林水産業みらい基金から助成金
- ・地域のスポンサーからのチーム運営費

⑤始動

概要

- ・チーム・農業法人・農家の**意気投合**が最大のポイント
〔グレーな部分(ex: 研修費)を志でカバー〕
- ・選手(就農者)は2年間、農業の研修・アルバイト
給付金年間150万＋農業法人バイトで150万→**年収300万**
- ・考えられる課題は、スポンサーの確立が容易でないこと
(作物によって、自然災害やスポーツの大会期間との両立難)



セカンドキャリア

給付金
(経営型)

亘理町
農林水産課

地域連携
イベント

独立

いちご
農家

給付金
(準備型)

研修

継続

後継者

選手
(就農者)

地域の支援
スポンサー

アルバイト

農業法人

練習場所
活動資金

助成金

みらい基金

管理

アールバイエン亘理



全国の地域連携イベント(年に1~2回ほど)

地域 vs 地域

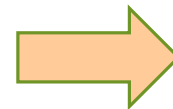
- ・抽選で対戦するチーム(地域)を決める
⇒勝ったチームは来シーズンの敵地の試合会場で
自地域の農産物を宣伝、販売権をGET!
- ・選手の農作業に対するモチベーションUP!



全国の方々に、各地方の
農産物を知ってもらえる!

会場では…

- ・チームの農産物の他に地域の特産品(ex.はらこ飯)を販売
⇒地域ぐるみでイベントを盛り上げる
- ・各チームのグッズ(ex.タオル、ユニフォーム)を販売
⇒ファン同士の交流の場にも(ex.バイエン女子)
- ・イベントの様子をSNSによって拡散→地域のPRに!



各地域で創意工夫を凝らし、
より地域性が高いものへ!

その他のアイデア

農福連携

スポ婚イベント

漁業への応用

まとめ
「スポーツ × 農業」の実現によって

両立した
課題解決

地域との
良好な関係

スポーツ×農業

アマチュア
スポーツの振興

食料自給率の上昇

参考文献

・農林水産省 農業センサス

<http://www.maff.go.jp/index.html>

・笹川スポーツ財団 スポーツライフ・データ2016

<https://www.ssf.or.jp/research/sldata/tabid/327/Default.aspx>

・農林水産業みらい基金

<http://www.miraikikin.org/activities/agriculture/biomt.html>

・フレッサ福岡 公式サイト

<http://fresa-fukuoka.jp/>

・文部科学省

http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpab201001/detail/1312141.htm